

コーヒーブレイク 2 ペイライエウスからアカデメイアへ

次の会話の中に登場するA～Fは誰かを答えよ。また、【1】～【9】に漢字2字をいれくイ>～<ハ>にカタカナを入れて会話文を完成せよ。また文中の①～⑨の下線部についての問と二重下線部についての《問》に答えよ。

(アテネの外港ペイライエウスにて)

A：「Cとギリシア哲学を語る宴」にご参加の皆様。ようこそペイライエウスへ！ 船を下りられたらこちらにお集まり下さい。本日の会場はB先生の学園であるアカデメイアです。本当は私の学園であるリュケイオンにお招きしたかったのですが、B先生のたつての希望で、アカデメイアとなりました。時間はまだありますので、ゆっくりとご自由にアカデメイアまでお越しください。私はこれからすぐにアカデメイアまで参ります。地理に不案内な方はどうぞ、私の後に続いてください。町（アテネ）まではおよそ7キロです。

カイレポン：C！君に会えてまた話を聞くことができるなんて、本当に嬉しいね。でもなんだってこのペイライエウスが集合場所になったんだろう。アゴラのほうがずっと便利なのにね。

C：多分、今日の参加者の中によそのポリスから来る人も何人もいるからだろう。B君がその人たちのために気を利かせたんじゃないかな。

(一同は長城を歩きながらアテネの市街地へと向かう)

カイレポン：C！あそこにいるのは喜劇作家のアリストファネスではないかい。あいつも今日の会に呼ばれているのか！ 僕はあいつが嫌いだよ。大体、君が裁判に訴えられたのも、もとはと言えば、あいつが「雲」の中で、君について変な噂を流したためじゃないか。

C：彼は僕のことを笑いものにしてくれたけど、あれは喜劇の上でのことだから、そう目くじらをたてることもないだろう。それに彼のことを本当に怒っていたB君が、「饗宴（シンポジオン）」で僕と彼を同席させてくれたのも、彼のことを許している証拠だよ。それにあの饗宴での彼の愛についての話は結構おもしろかったじゃないか。

カイレポン：きみがそういうなら仕方ないね。今日の宴を楽しみにしていたのに、ちょっと興ざめだよ。それはそうと、C、前を並んで歩いているのはDとEではないかな。DさんとEさん！今日は。お二人が並んで歩いているのは面白いですね。何しろお二人は【1】主義と【2】主義を代表するのですから。

D：世間で考えているほど僕たち二人は生き方を異にするわけではないよ。それに僕のことを【1】主義者と言うのはやめてくれ。僕は肉体的【1】を決して認めてはいないのだからね。僕の言う【1】とはもっと精神的なものなのだよ。①いわれのない恐れを理性の力で根拠のないものとして退けることで、②決して揺らがない精神の安定を得ることが僕の理想なのだからね。

E：Dさんの言うとおりでですよ。私は人間を不幸にする③情念から解放された心の平静を理想としましたが、それは実際のところはDさんの理想の境地とそれほど変わらないのだと思います。それに、実際、世間の学者たちは私たちの時代の哲学のことを処世術として軽蔑する傾向にありますが、私は、④本当の意味で自分の生き方を問いかけるのが哲学というものならば、本当の哲学は私たちの時代に始まったといいたいです。

* * * *

A：皆さま町に着きました。まもなくアゴラです。

C：懐かしい眺めだね。【3】を仰いで以来だよ。僕はよくこのアゴラの列柱で人々に語りかけたものさ。知恵があると思っている人々には、本当は⑤大切なことを何も知っていないということを理解できるように努力したものさ。そういえば、Eさん。あなたの学派もこの列柱から生まれたのですよね。

E：そうですよ。私もあなたと同じくお金がなかったもので、ここで人々に語りかけることから始めたのです。でも私とあなたの違いはポリスについての考え方だと思います。あなたにとってはアテネというポリスが一番大切なものですが、私にとっては、ポリスの枠をこえたく イ >こそ、私たちの住む場所なのです。

C：僕にはポリスを離れた生き方は想像もつかないよ。僕がハデイス（冥界）に逝ったあと、随分世の中が変わったんだね。

A：皆さま、まもなくディピュロン門です。あの門をくぐって城壁を出ると、後は道なりに1キロ余でアカデメイアです。

カイレボン：C！ あそこのディピュロン門の前で僕たちに手を振っているのは F とポロスとカリクレスの 3 人じゃないか。ひょっとしたら彼らも今日の会に招待されたのだろうか。だとすると面白いね。あのときの再現になると思うよ。

C：やあ、F さん。いつぞやは大変失礼しました。皆さんもアカデメイアへお出かけですか。まあ、立ち話もなんですから、門をくぐって出かけましょう。ここから先はアカデメイアまで一本道ですから。

F：あの時は君に随分つまこまれたね。僕は弁論術のすばらしさを強調したかったのに、君ときたら体育術に対する化粧法、医術に対する料理法のように、弁論術をまるで真の【4】に対するものとして批判してくれたものね。

カイレボン：F さんには悪いけど、あの時の⑥Cの弁論術批判は痛快だったね。

ポロス：そんなに F 先生を批判しないで欲しいよ。もうお年なんだから。お疲れじゃないですか。僕にもっとお金があったら、四頭立ての馬車でも買ってG先生だけでなく、皆さんをアカデメイアまで送ってあげることだってできるのに。本当に金持ちは羨ましいよ。

C：君も相変わらずだね。まるで金持ちで何でも思い通りのことができる人が幸福だと思っているのだから。僕としては、その考えに絶対に同意できないよ。もっともカリクレスさんは僕に同意してはくれないだろうけどね。

カリクレス：当たり前さ。僕ははっきり言って、君みたいなウジウジした人間は大嫌いなものさ。何が「正しく生きる」だ。何が「真実」だ！そんなものはグチャグチャに踏みつぶしてやりたいよ。いいかい、現実には強い者が支配するんだ。これこそ【5】の正義さ。そして人間にとって信用できるものは、自分が生きていて、様々の欲望をもっているということだけなのさ。ほら、例のギュゲスの指輪を君が手にしたら、君だってきっと勝手に欲望のままに生きてしまうと思うよ。

C：相変わらず元気がいいね。でも僕は君に賛成できないよ。その点についてはゆっくり議論しようじゃないか。いまは、僕たちが歩いているケラメイコス区は戦没者の安らぎの場所だし、僕たちが向かおうとしているアカデメイアは神聖な神域なのだからね。魂を清めて哲学しながら歩くには絶好の散歩道だよ。

カリクレス：相変わらず現実離れしているね。大体、神なんていうものは⑦<_____>。
君が言う哲学なんて何の役にも立たない。正直者が馬鹿をみるっていうのは、何時の時代でも真理なのさ。

C：僕はやはりそうは考えないんだ。⑧善き人には生きているときも、死後も、悪しきことは何ひとつおこらないっていうのが僕の信念なのだ。できれば君もそう考えて欲しいのだけれど。

カイレポン：C！むこうからB君が手を振ってやってくるよ。多分君に早く会いたくて迎えに来たんだろう。

B：皆さんようこそアカデメイアへいらっしゃいました。ここからは私が皆さまをご案内いたします。それにC先生！やっとお会いできました。先生のことは私は片時も忘れることができませんでした。先生が裁判にかけられて死刑と決まったときは本当にショックでした。私は、先生が一体何者だったのだろうと問い続けました。先生の法廷での様子は「Cの【6】」で描きました。先生が【3】を仰いでおなくなりになった場面は「< ロ >」で描きました。これらの【7】篇を書くことを通じて、私は自分の哲学をつくりあげたのです。そして二度と再び先生の身に起こったような不幸が起こらないためにも、真の哲学を身に付けた人材を世界に送り込もうと、アカデメイアを設立したのです。真の正義は【8】からのみ見て取れると考えたのです。さあ、皆さん、アカデメイアに到着しました。

C：あれ、あの看板はどうしたのかい。ほら「【9】学者にあらざるものこの門より入るべからず」というやつだよ。

B：ああ、あの看板ですか。あんな看板、本当はかけていなかったのですよ。さて、もう少しお付き合い下さい。私は皆さまにお見せしたいものがあるのです。この道を右に曲がります。左手の夕陽が美しいでしょう。この坂道を登っていきます。この先がコロノスの丘です。

カリクレス：まったく、人を招待しておいて、どこまで歩かせれば気がすむのかい。腹がたつね。

B：このあたりでいいでしょう。カリクレスさん！右を向いて遠くを見て下さい。

カリクレス：ああ！　なんて素晴らしい眺めだ！　アクロポリスの上のパルテノン神殿が

夕陽を受けて輝いているじゃないか。なんて美しいんだ！

B：カリクレスさんにも美しいと感じていただけましたか。でも何故カリクレスさんは「美しい」と思ったのでしょうか。実は、私はこの景色を皆さまに見ていただきたくて、この時間に皆さまをご招待したのです。この景色を見て美しいと感じるのは、私たちが本当は美とは何かを知っているからなのです。カリクレスさんは、現にあるこの世界の事物しか存在しないとお考えですし、またこの世界しか信用なさっていないようです。⑨でもこの世界は本当は影のようなものなのです。本当に実在している世界はもっと美しいのです。そして、私たちはその美しい世界の住人だったのです。だからこそ、私たちは美とは何かを知っているのです。あのアクロポリスの輝きを見て、何か魂が揺さぶられませんか。この魂が揺さぶられる想いこそ、私が〈ハ〉と呼ぶものなのです。そして、この憧れの心を私に呼び起こしてくださったのが、C先生、あなただったのです。それでは皆さま、私の家にもどって饗宴を始めましょう。できればC先生のお話を聴きながら、飲み明かしたいものです。

- ① そのためにEが採用したのは誰の何という考えか答えよ。
- ② このような境地をEは何と呼んだか。
- ③ このような境地をFは何と呼んだか。
- ④ どういうことか、授業をふまえて説明せよ。
- ⑤ このようなことを何というか。
- ⑥ Cの弁論術批判を説明せよ（二つの点をあげること）。
- ⑦ 〈 〉の中に適切な文章を入れよ。
- ⑧ 「ゴルギアス」の内容をふまえて説明せよ。
- ⑨ Bは主著の「国家」のなかで比喩を使ってこれを説明している。どのように説明したのか、図を描きながら説明せよ。（図のみではなく文章でも説明すること）

《問》二重下線部について。ギュゲスの指輪とは、それを手にはめた人は、姿を自由に消すことができる魔法の指輪である。一度この指輪を手に入れて、誰からも自分の悪事が見られず、罰も受けなくなれば、日頃どんなに倫理的に立派なことを言っている人も、結局は自分の欲望のままに勝手な生き方をしてしまうといわれる。そのことについてあなた自身はどう考えますか。解答欄のスペースにみあった分量で答えなさい。

解答

A アリストテレス B プラトン C ソクラテス D エピクロス
E ゼノン F ゴルギス

1. 快樂 2.禁欲 3.毒杯 4.政治 5.自然 6.弁明 7.対話 8.哲学

- ① デモクリトスの原子論 ② アタラクシア ③ アパテイア
- ④ 人間はポリス的動物といわれる。ソクラテスもプラトンもポリスを精神的な支えとしていた。しかし、ヘレニズム期のポリスの崩壊により、人々は世界に一人投げ出された。そこではじめて、個人として自己の生き方を真に問いかけざるをえなくなった。
- ⑤ 無知の知
- ⑥ 弁論術は「へつらい」であり、人々に耳障りのよいことを言って賛同をえているに過ぎない。また、弁論術の説得は「知識」によるものではなく「信じ込ませる」ものであり、正しい知識をもつ専門家の前で専門家にたいしては通用しない。それゆえ、弁論術とは「無知なものが知識のあるものよりも、無知なものの前では説得力がある」ということに他ならない。
- ⑦ 弱者のつくり出したノモスにすぎない。
- ⑧ 人間にとっての最大の不幸は不正を行うことによって魂を醜いものとする事である。美しい魂はそれ自体で幸福である。死後も、美しい魂をもった人間は神々の吟味（魂そのものの美醜の判別）により幸福の島へと送られる。それ故善き人には生きているときも、死後も、悪しきことは何ひとつおこることはない。
- ⑨ 省略

<問>自由記入